

INFORMATION



ファン・デ・ナゴヤ 美術展

名古屋市市民文化振興事業積立基金（文化基金）を活用し、
1999年から開催している美術展です。

「こんな美術展を実現したい!」という新しいアイデアを募集し、
採択後には進捗報告会をステップアップの場として、企画を実現します。

会場

名古屋市民ギャラリー矢田

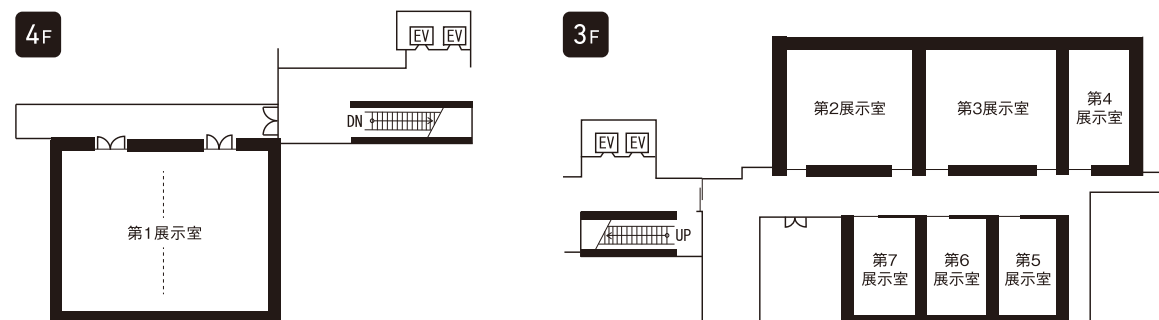
名古屋市東区大幸南一丁目1番10号 カルポート東3F/4F
TEL 052-719-0430

交通アクセス

- 地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」下車 1番出口 南へ徒歩5分
 - ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」下車 南へ徒歩3分
 - 市バス「大幸」下車 徒歩5分（名駅15号系統、東巡回系統）
- ※駐車台数102台（東文化小劇場・東スポーツセンター・東図書館と共用です。
専用駐車場はございません。）
※他施設催事により入出庫が込み合う場合がございますのでご注意ください。



名古屋市民ギャラリー矢田 展示室平面図



問い合わせ先

公益財団法人名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9385 <https://www.bunka758.or.jp/>

公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

感動を育てる種をまこう。
名古屋市文化基金

Nagoya
City of Design

【名古屋市文化基金事業】



次世代キュレーター & アーティストによるアートエキシビション

ファン・デ・ナゴヤ 美術展 2026



Fan De Nagoya
Art Exhibition

会期

2026.1.9 [Fri.] ▶ 1.18 [Sun.]

会場

名古屋市民ギャラリー矢田

開館時間

10:00 ~ 19:00
※ 13日(火)は休館日
※ 12日(月・祝)、18日(日)は17:00まで

主催

ファン・デ・ナゴヤ美術展2026
「石の裏を覗く」「手ぶらという仕草を眺める」
「The correct life」実行委員会

公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

入場
無料

4F

Fan De Nagoya Art Exhibition 2026

第1展示室

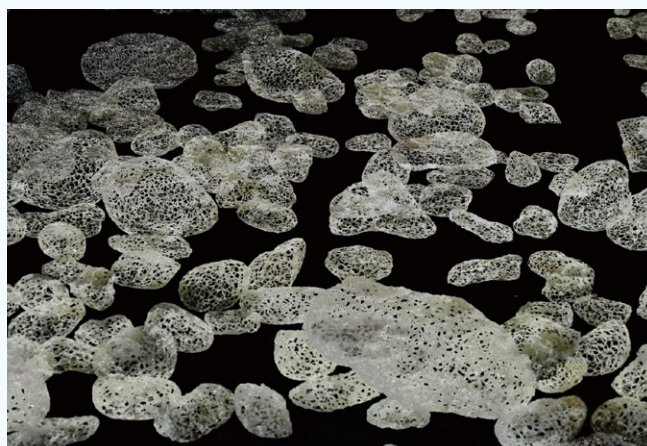
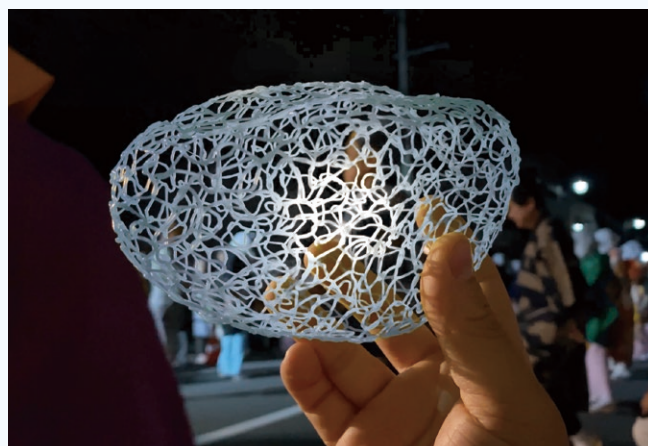
「石の裏を覗く」

企画・出品作家 山岸耕輔

Artist profile

山岸耕輔 | YAMAGISHI Kosuke |

1995年石川県生まれ。2020年金沢美術工芸大学大学院修士課程美術工芸研究科絵画専攻修了。2022年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。現在は秋田を拠点に活動中。水平に移動するパフォーマンスや、3Dペンで作成したオブジェを用いた映像などを制作。人と場所の関係を捉えなおし、新たな風景の描写を試みる。主な展示に「OVER ROAD」(金沢市民芸術村/PIT5アート工房、2023)「風の中の風の音」(天徳院、2023)がある。



企画展「石の裏を覗く」は、河原をモチーフに、過去と現在、モノと精神、そして彼岸と此岸の境界を現出させる。かつて、河原は現世と異界の境界だった。それは死者を自然に還す場所であり、河原石は墓や祭祀に使用され、古代の人々は河原を通じて生と死のサイクルを見出していた。時代は進み、衛生の観点から河原に死者が弔われることはなくなった。河原は特別な意味を失い、管理された風景の一部になった。そこに死体は横たわっていない。本企画展では古代の遺跡が多く残る秋田県北部の地域でのリサーチをもとに、河原石から複製したモノと映像を組み合わせることで、展示空間に新たな河原を創り出す。それは、古代の死生観を顧みる場であり、この世界と異界のあいだを捉える装置である。丸みを帯びた石に、もはや裏側は存在しない。では裏はどこにあるのか。複製された河原石は質量のほとんどない輪郭だけの空っぽな存在だ。この輪郭の隙間から、私たちは石の裏を覗くことができる。無数の「石」で構成された河原から、過去と現在、モノと精神、彼岸と此岸の新たな循環を見出すだろう。

3F

Fan De Nagoya Art Exhibition 2026

第2～3展示室

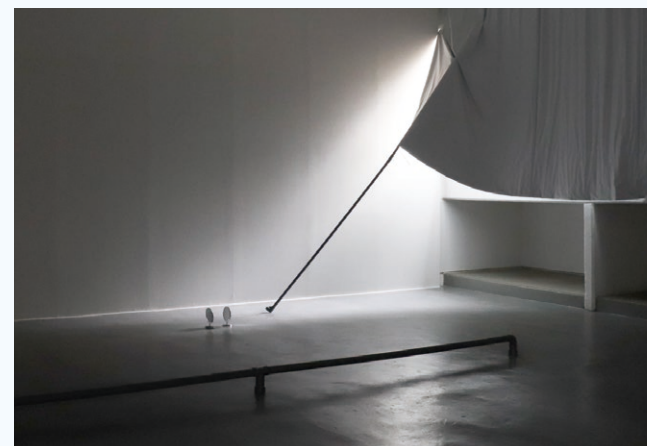
「手ぶらという仕草を眺める」

企画・出品作家 高見知沙

Artist profile

高見知沙 | TAKAMI Chisa |

1996年愛知県生まれ。愛知県を拠点に活動。2023年武蔵野美術大学大学院造形構想研究科造形構想専攻映像・写真コース修了。中間の状態を保持することを制作のテーマとして、映像やインスタレーション作品等を展開する。主な展覧会に2024「TOKAS-Emerging 2024」(C | 23度のリング) (トーキョーアートアンドスペース本郷、東京)、2022「ささやかな膜」(KOGANEI ART SPOT シャトー 2F、東京)など。



「手ぶら」という仕草ものごとに対する「はい」と「まだです」とを同時に重ねるようにして、あえて柔らかく、軽く、何も握らずに立つ。そうしているとき、人はなにげなく、手ぶらでいる。「待つ」ことのまわりでただ何もしないわけではなく、ただ待たされているのではなく、ただ、在り続ける。行為であり、状態であり、動きながら、待つこと。待ちながら、動かされていくこと。何かをせずに、何かをしているということ。それは、ある種の選択であり、判断や結論ではなく、関係のかたちとしての応答でもある。輪郭の滲んだままの思考に身を委ねながら、「待つための出来事」として現れるその時間に、未定のままのやりとりを添えるような静かな仕草が浮かぶ。

3F

Fan De Nagoya Art Exhibition 2026

第4～7展示室

「The correct life」

企画・出品作家 村瀬ひより

Artist profile

村瀬ひより | MURASE Hiyori |

愛知県立芸術大学大学院美術研究科在籍。「自己と他者」を主題に絵画を制作。日常の違和感や疑問を出発点に、正しさを問い続ける姿勢を軸とする。主な展示に「Beyond A and Z」(2024, ART LAB AICHI)、「村瀬ひより展 -Persople-」(2025, GALLERY IDF)。「自己と他者」を主なテーマとし、絵画作品を中心に制作をしている。また、日々の中でふと浮かぶ小さな違和感や疑問を制作の出発点とし、正しさについて常に考えながら作品と向き合っている。



間に立つすべての人たちへ「水と水は争わない。」何かで見かけた言葉だ。しかし、私たちは水ではない。輪郭を持ち、独立した存在として、しばしば対立しながら生きている。地域や時代、立場によって揺れ動く正しさを、まるで不動の事実であるかのように振りかざし、人は共感したり、矯正したり、あるいは争ったりする。それでも、私たちは日常の中で、自分や自分以外の存在と向き合い、見極め、取捨選択を繰り返しながら、進んでいくばかりだ。善と悪、真と偽、私とあなた——。この展示では、主に些細な日常の一場面に焦点を当てる。そして、二項対立の枠組みにとどまらず、その間に立ち、そこにある揺らぎや曖昧なものについて考え、問い続けたい。



関連イベント情報

「3企画合同ギャラリーツアー」 第2展示室集合
1月10日(土) 16:30～17:30 ゲスト：鵜尾佳奈(愛知県美術館学芸員)

参加無料
(申込不要)

同時開催

■4F 第1展示室「石の裏を覗く」 ■3F 第2～3展示室「手ぶらという仕草を眺める」
■3F 第4～7展示室「The correct life」